

東証プライム市場
名証プレミアム市場

証券コード 7241

FUTABA

個人投資家様向け説明会
フタバ産業株式会社

2026年7月7日

本日のポイント

Point 1

フタバ産業は創業80年の自動車部品グローバルサプライヤー

Point 2

成長戦略(インド事業、新規事業等)の創出と、経営基盤の強化で持続的成長を目指す

Point 3

累進配当で株主の皆様へ安定的かつ継続的に利益を還元しつつ、ROE10%・営業利益率5%を目指すことにより、更なる企業価値向上を目指す

アジェンダ

- 1.会社概要
- 2.成長戦略
- 3.稼ぐ力
- 4.サステナビリティ
- 5.財務戦略

アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

一目でわかるフタバ産業

創業

80年

売上高

6,779億円

(2026年3月末時点)

顧客別売上比率

トヨタG **8**割

排気系部品生産シェア

国内 **No.1**

グローバル拠点数

20以上

グローバル従業員数

約 **1** 万人

配当利回り

4.79%

(2026年6月末時点)

株価

940円

(2026年6月末時点)

PBR

0.6倍

(2026年6月末時点)

歴史・沿革

社会課題

1945—

戦後の生活必需物資の欠乏

1960—

モータリゼーションによる公害問題

1980—

省資源・省エネルギーへの対応

2000—

ハイブリット車による燃費競争

2010—

気候変動・食糧問題の深刻化

2020—

脱炭素社会実現への取組と環境規制の加速

売上高
(億円)
8,000

製品・技術を通じた解決策

1945: 漁網編機



1959: マフラー事業に参入



1947: パイプ製応接セット



1989: ステンレス製エキゾーストマニホールドを開発・生産



2001: 980MPa冷間超ハイテン材加工のセンターピラーを開発・生産



2015: ホットスタンプ加工のフロントピラーを開発・生産



2022: センターフロアパンサブアッセンブリを生産



2023: 1470MPa冷間超ハイテン材加工のフロントピラーを開発・生産



1970

1980

1990

2000

2010

2020

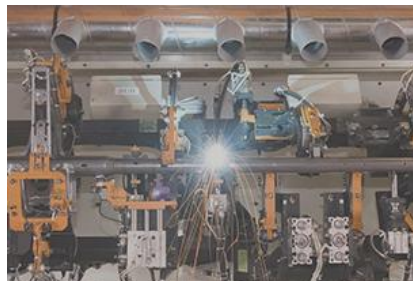
成型・接合技術を生かした、時代に合わせた製品開発

フタバ産業の強み

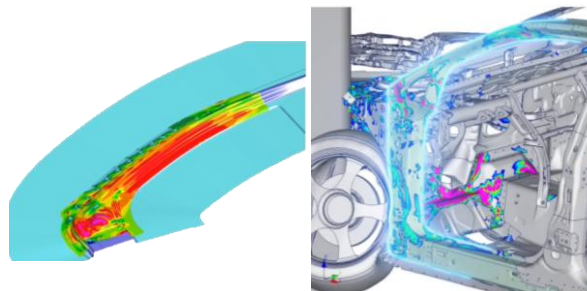
8つのコア技術



①成型 プレス加工



②接合 レーザ/アーク/
スポット溶接



③解析 成型/
衝突解析



④消音 排気管



⑤浄化 排気管



⑥吸着 キャニスター



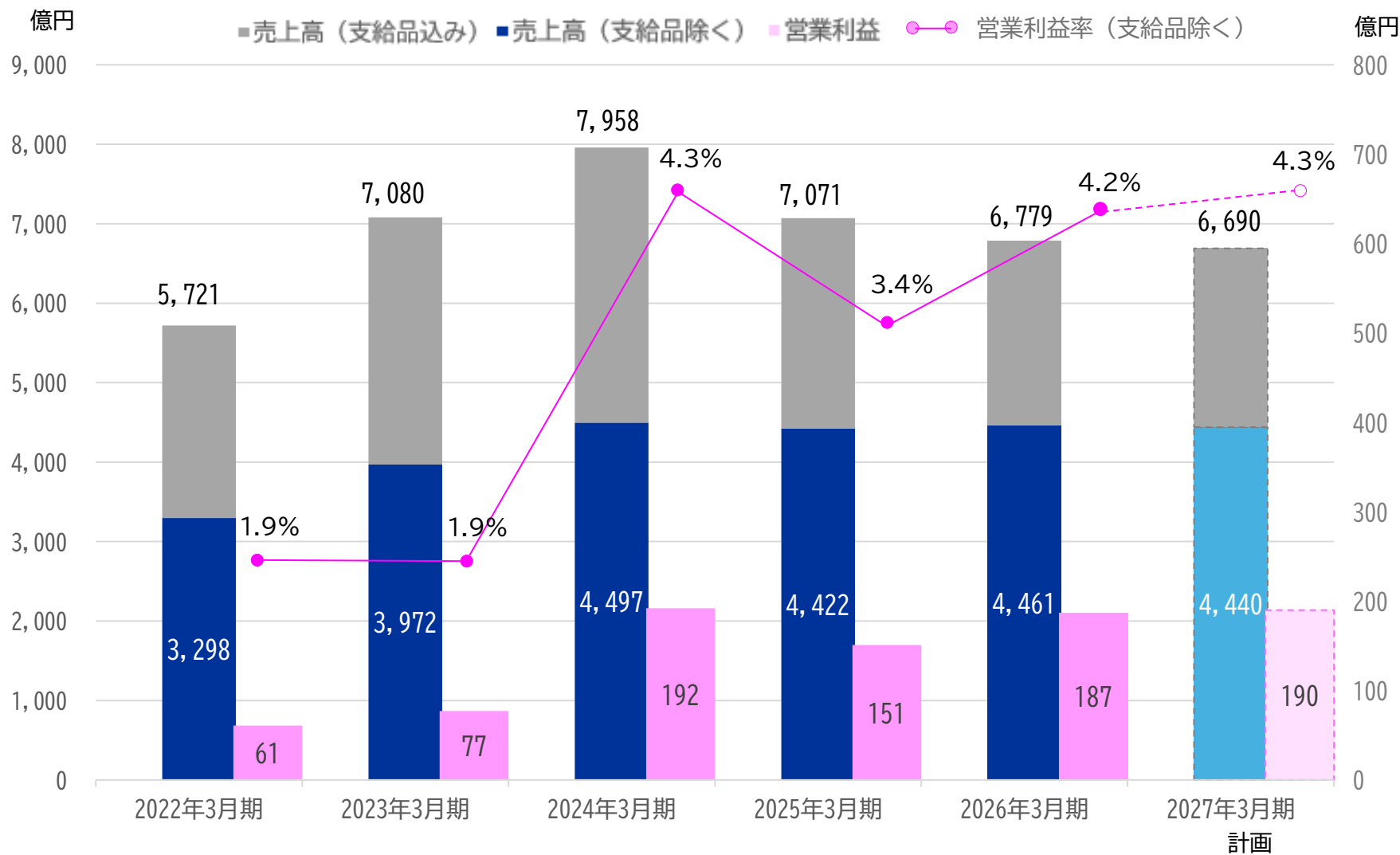
⑦熱マネ 排気熱回収器



⑧画像認識 画像検査

80年以上のあゆみの中で培ったコア技術は今なお深化/進化

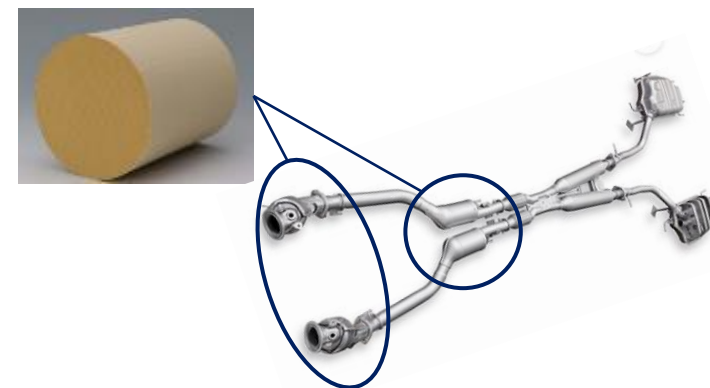
売上高・営業利益推移



☆支給品とは…

- ・得意先から有償支給される触媒等の部品
- ・支給品を含む製品の売価には、支給品額が含まれており、**利益影響はない**

※支給品：触媒（キャタリック・コンバーター）



売上・営業利益ともに堅調に推移し、収益力が向上

主要事業 [3部門]

01 自動車部品事業

○ボデー部品&内装部品

ボデー骨格部品、インパネリインフォース

○排気系部品

排気系システム、エキゾーストマニホールド

○環境系部品

排気熱回収器、
DPF(ディーゼル排ガス後処理装置)

○足回り部品

フロントサスペンションサブフレーム、
トレーリングアーム
リアアクスルビーム、エンジンアンダーカバー

○燃料系部品

フューエルインレットパイプ、キャニスター

02 外販設備事業

○汎用・専用・共用ラインの設計製作



03 農業事業

○Oagleaf® CO₂システム



01 自動車部品事業

ボデー/内装部品 2,501億円



ボデー骨格部品

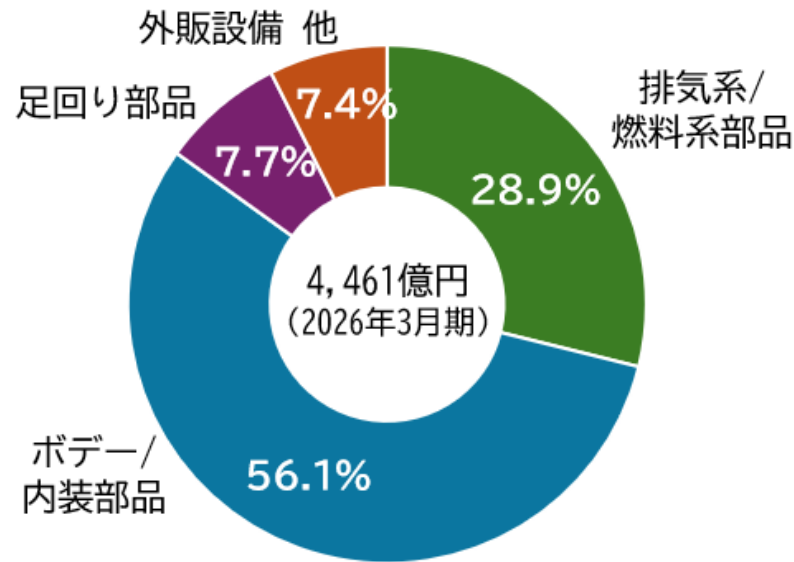


センターフロアパン
サブアッセンブリ



インパネ
リインフォースメント

製品別売上高比率
(支給品除く)



足回り部品 341億円



トレーリングアーム



エンジンアンダーカバー

排気系/燃料系部品 1,288億円



排気系システム



エキゾーストマニホールド



キャニスター



フューエルインレットパイプ

◆外販設備事業、農業事業、その他 329億円

02

外販設備事業



国内外の自動車完成工場に向けて
組立溶接ライン(設備)を製作しています。
営業活動から構想検討、設計製作、
トライ調整まで一貫で設備づくりを行っています。



▲ 組立溶接設備

03

農業事業



自動車部品開発で培ったコア技術を応用し、農業
ハウス栽培用「agleaf® CO₂システム」を製造・
販売しています。

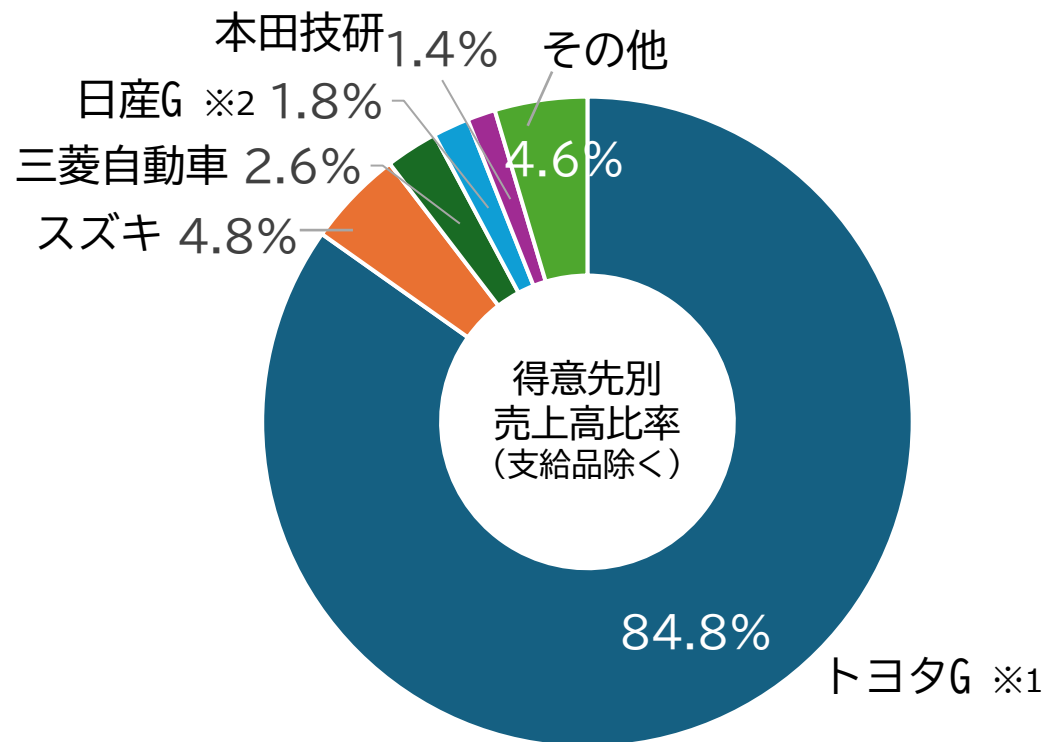


▲ 農業ハウス栽培用CO2貯留・供給装置「agleaf ®」

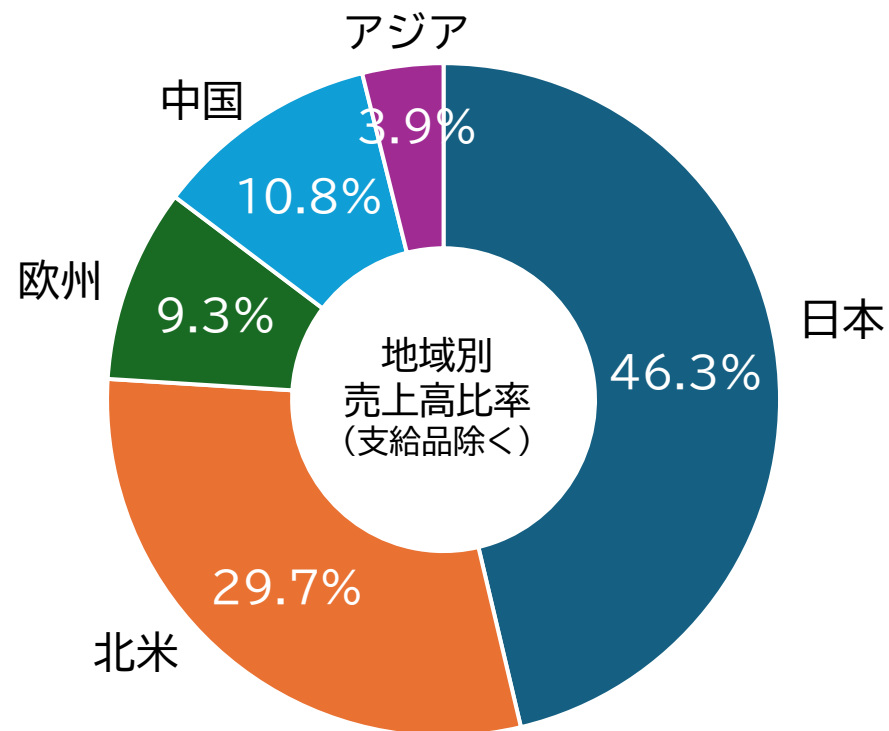
成型・接合技術は自動車部品→外販設備→農業へと事業拡大

売上高(得意先別、地域別)

得意先別シェア
(2026年3月期)



地域別シェア
(2026年3月期)



※1 トヨタGにはダイハツ、日野自動車を含む
※2 日産Gには日産車体を含む

トヨタとの強固な取引関係を軸に、安定した収益基盤を構築
国内を基盤に、北米市場でも着実に展開

生産拠点(国内拠点)

国内拠点

国内生産拠点

●:本社 ●:工場



国内子会社・関連会社

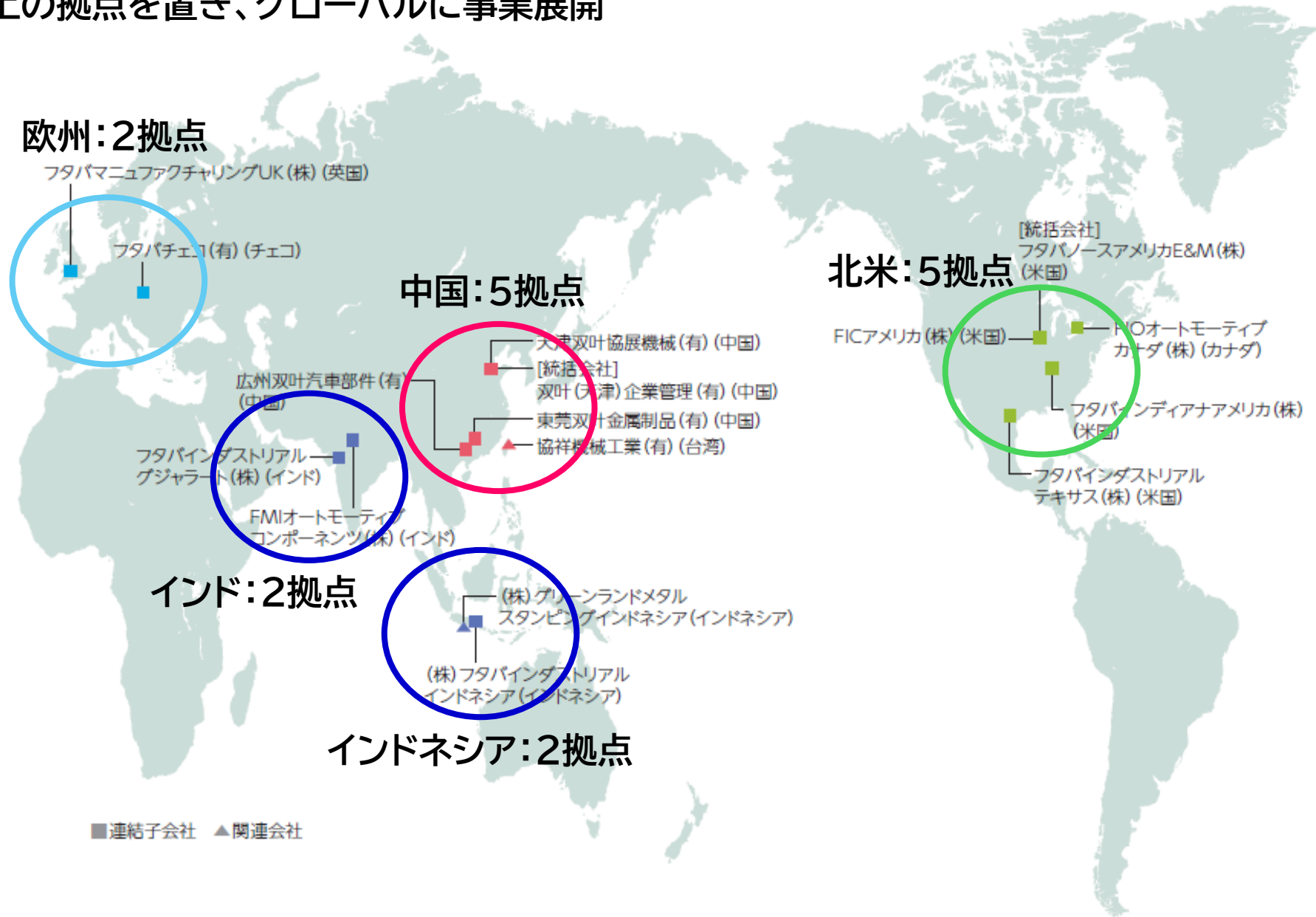
■:連結子会社 ▲:関連会社



グローバルネットワークを生かし、国内外のお客様に素早く対応

生産拠点(海外拠点)

世界に20以上の拠点を置き、グローバルに事業展開



アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

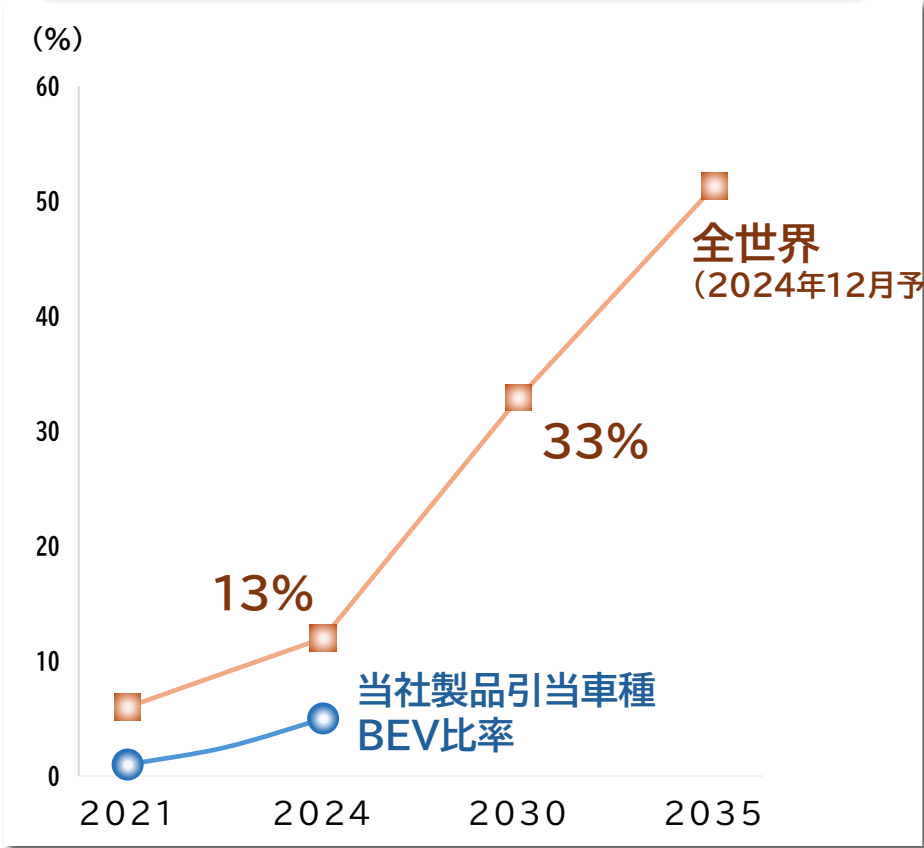
4.サステナビリティ

5.財務戦略

世界新車販売台数BEV比率予測

※PHEVは除く

直近外部データに基づき売上影響を予測

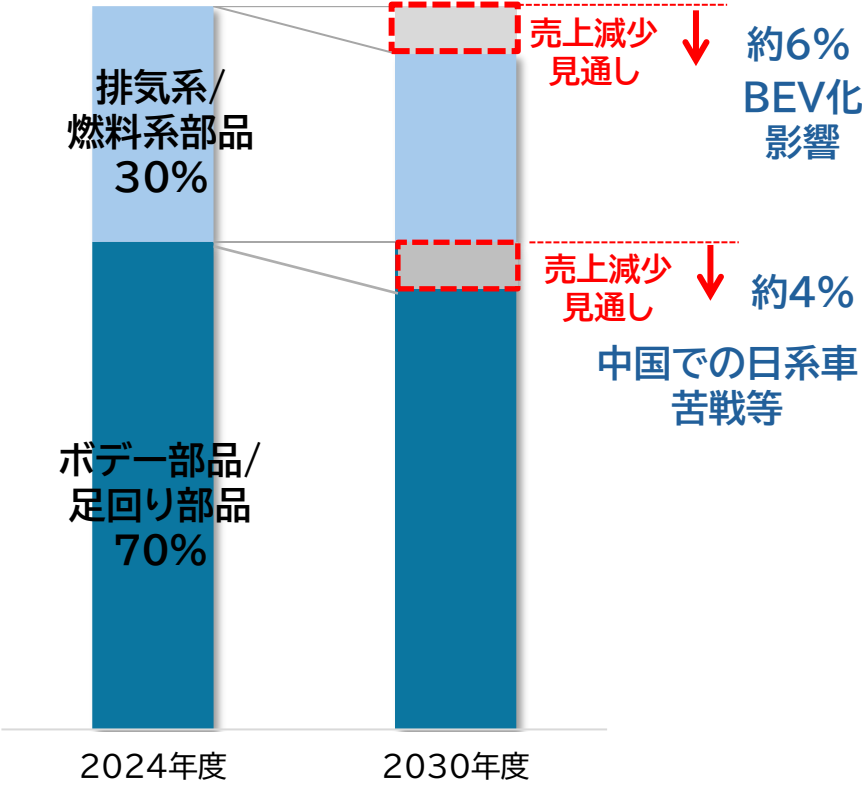


※出典:MarkLines作成(2024年12月時点の予測データ)よりフタバ産業が作成

フタバ連結の売上影響予測

※自動車関連部品・支給品除く

BEV普及に加え中国等の減少により
約10%の影響あり



排気・燃料系が売上の3割を占める中、BEV化は事業成長への逆風となり得る

目指す姿

2030年のグローバルでの安定成長に向けて中期経営計画を策定



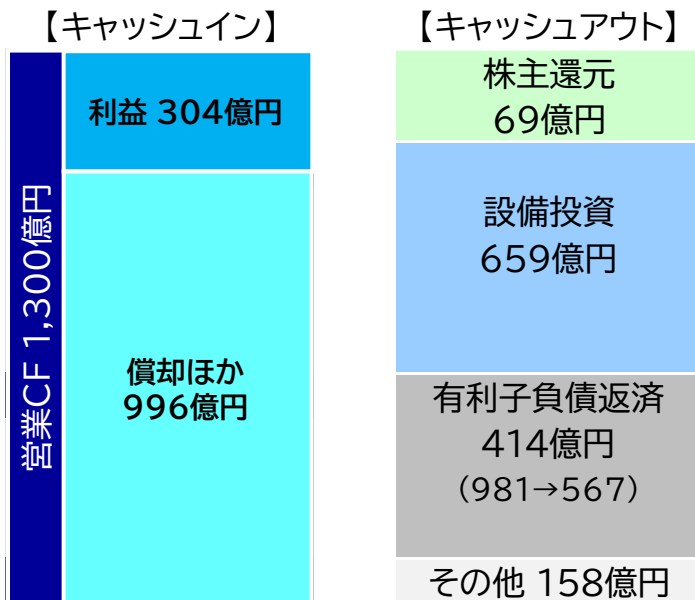
既存事業の成長・新規事業の事業化・経営基盤の強化に取り組む

キャッシュアロケーション

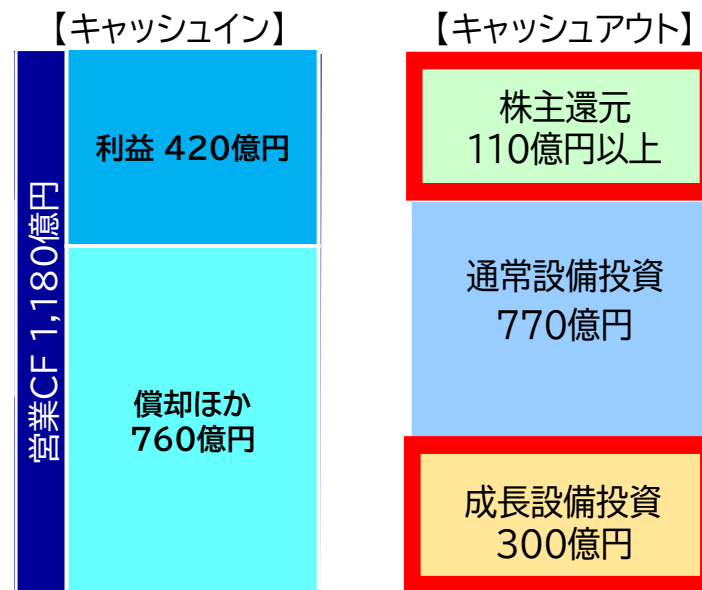
キャッシュ配分の変更

配分：「有利子負債返済」 ▶ 「将来成長投資」「株主還元」

前中期経営計画 2022-2024



新中期経営計画 2025-2027



▷ 現中計期間(2025-2027)では 研究開発費への投資を **220億円** へ増額予定。

※前中計期間(2022-2024) 研究開発費:150億円

将来成長投資、株主還元に注力

成長戦略: ボデー系部品事業①

目指す姿

モノづくり力、構造提案力で、自動車メーカーのボデー設計、解析業務を担える集団

大型・一体化への取り組み

従来



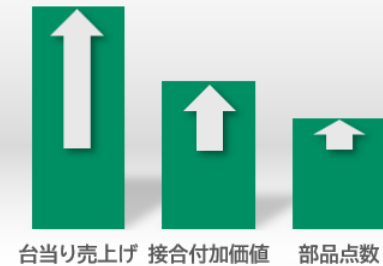
小規模組立部品



現在



中規模組立部品

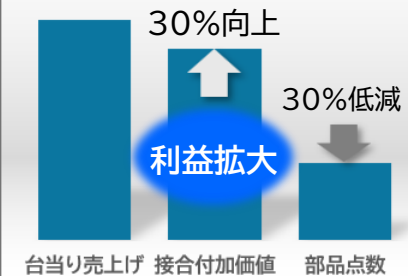


ゾーン開発による
大型化

将来

更なる拡大
利益向上

一体化構造提案



bZ4X



2022

クラウンシリーズ



2023

様々な車種に拡大

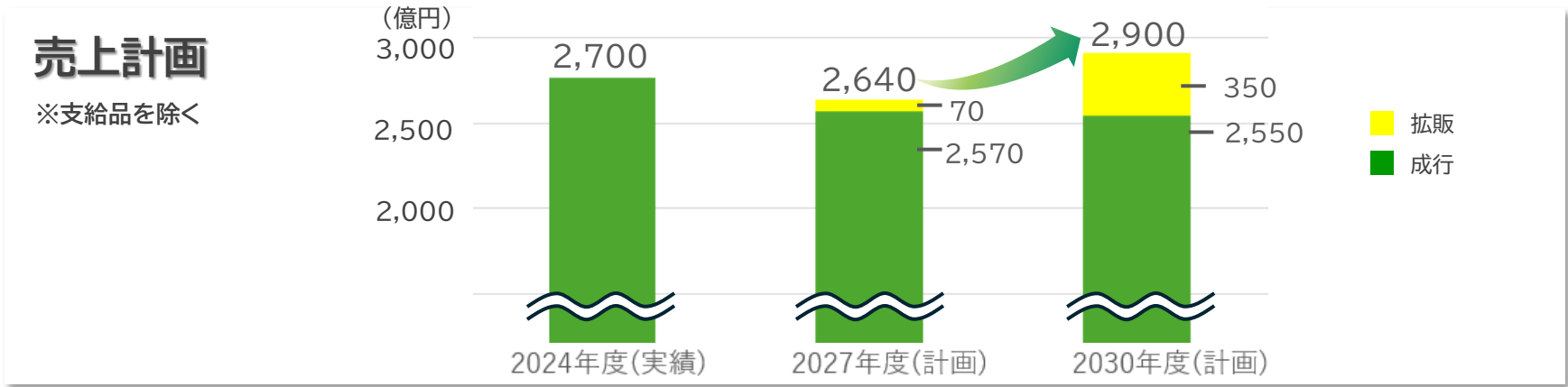
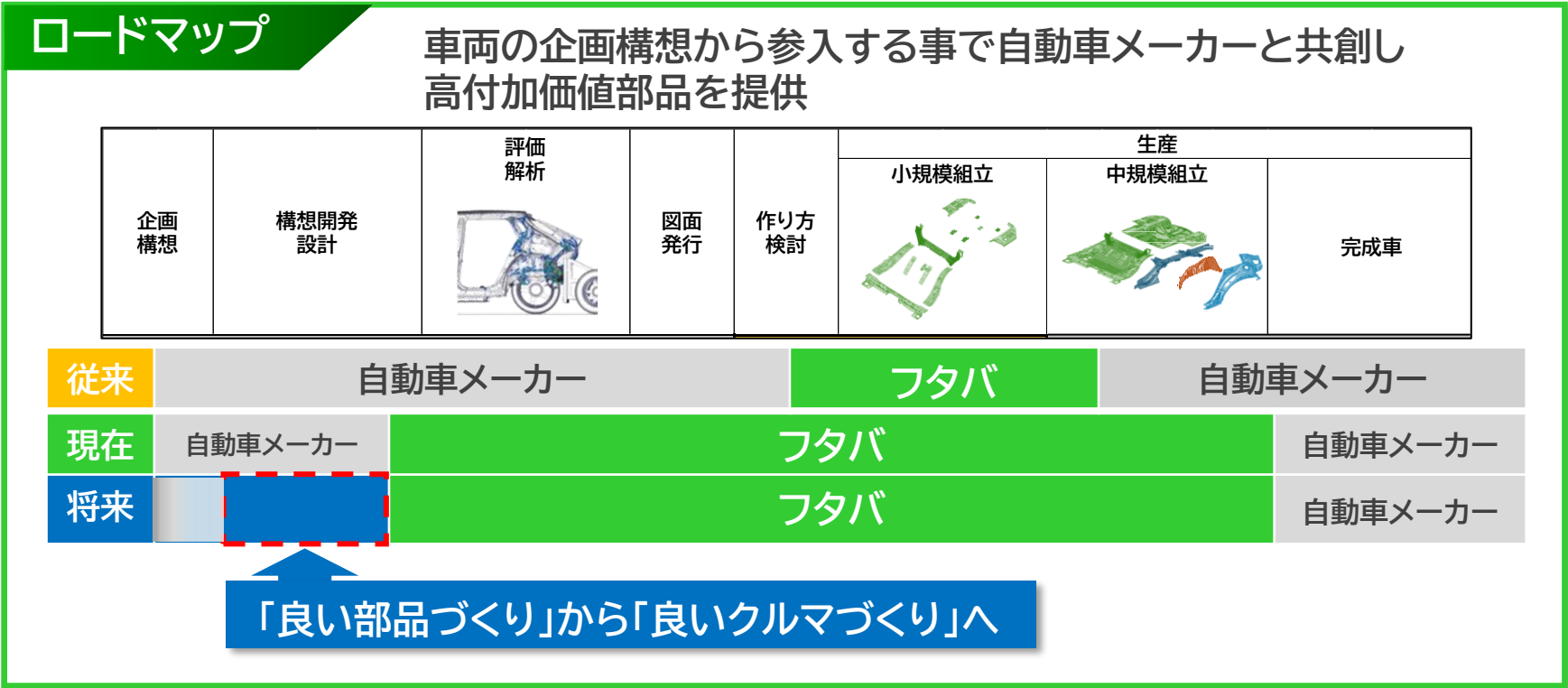
ランドクルーザー250



2024

2025

■:大型化部品
■:その他の
受注部品



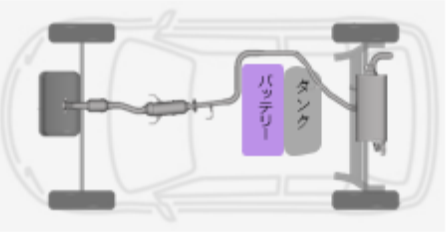
目指す姿

電動化ニーズに合わせた新たな排気システムの開発
(フルモジュラーマフラーの開発/生産効率の向上)

ロードマップ

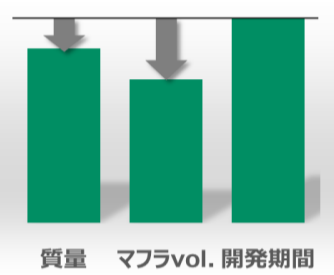
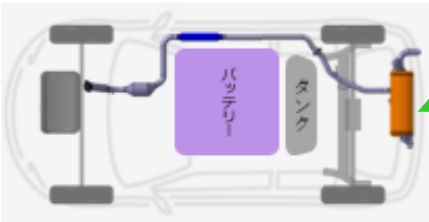
モジュラーデバイスからフルモジュラーマフラーへの進化

従来



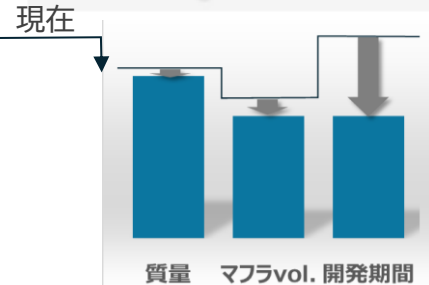
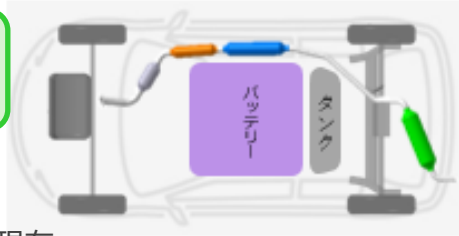
現在

モジュラーデバイス追加
PHEV、HEVへの拡販活動



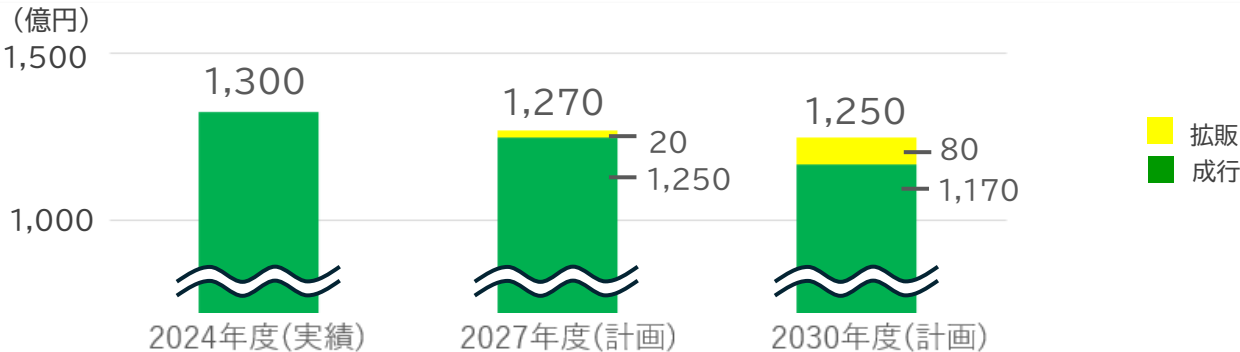
将来

フルモジュラーマフラー
小型、標準化マフラーの組合せ



売上計画

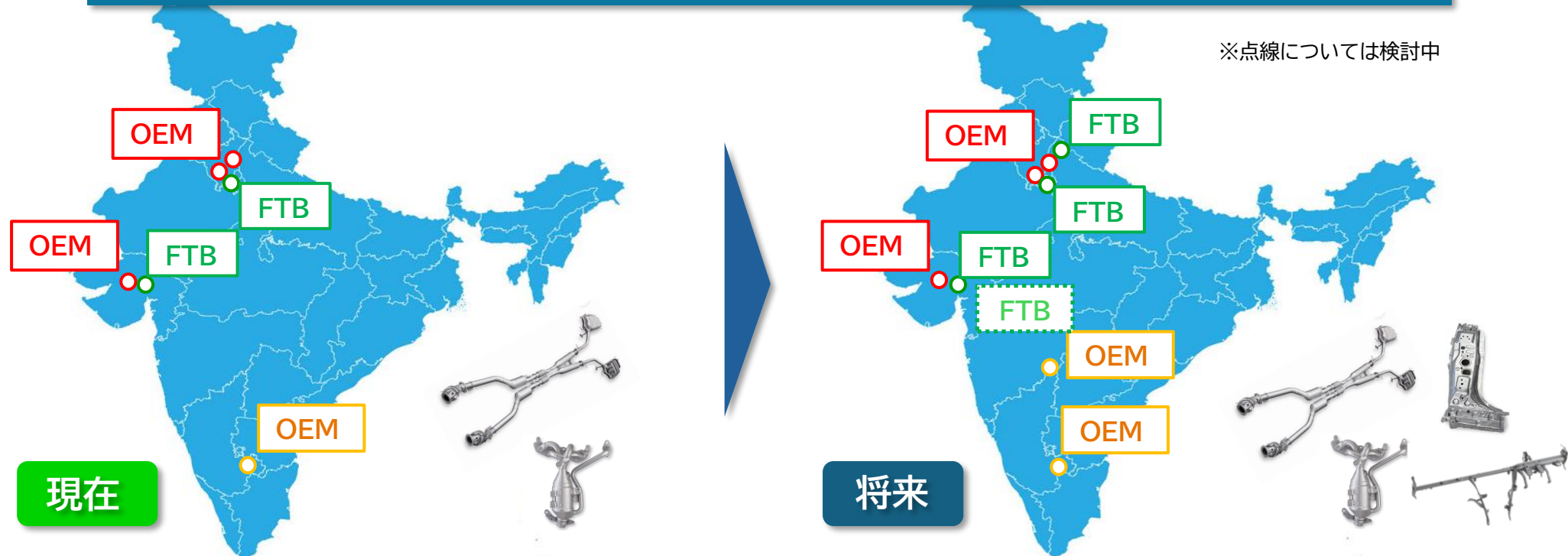
※支給品を除く



成長戦略:インド事業①

目指す姿

自動車メーカー(OEM)の成長に対応し事業拡大・成長する



フタバの強み

- 日本のものづくりをインドで実現(品質、生産性、改善)
- 鉄・ステンレス加工メーカーとしての幅広い大物製品(ボデー、インパネリインフォースメント、排気管、エキゾーストマニホールド)
- 優秀なローカルスタッフ

2024年12月24日 ニュースリリース

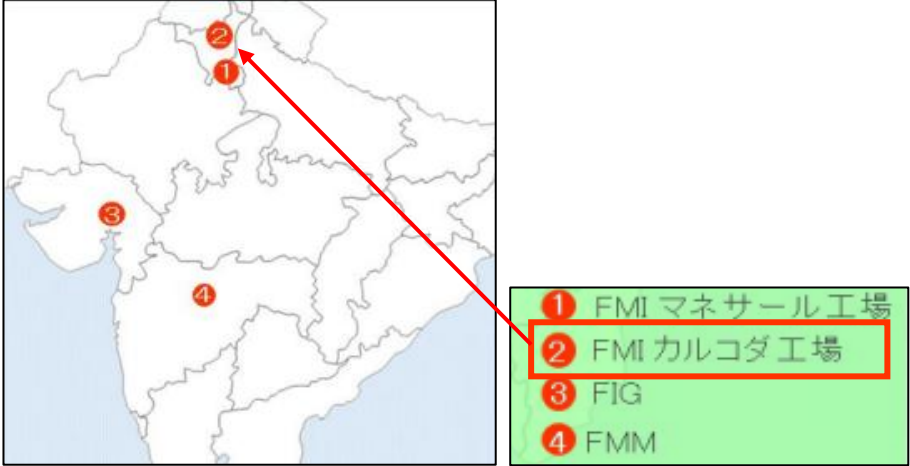
インド カルコダ 新工場設立に関するお知らせ

■新工場の概要

所在地	インド国 ハリヤナ州 カルコダ
投資額	約25億INR (約45億円)
着工	2025年4月 (予定)
稼働開始時期	2027年3月 (予定)
延べ床面積	約10,000㎡
従業員数	約300名

※ニュースリリース時

■インドにおける生産拠点



■新工場完成イメージ



2026年5月20日 ニュースリリース

インド中西部に新工場設立 ～トヨタ・キルロスカ・モーター様向けボデー系部品事業を開始～

■新工場の概要

所在地	インド国 マハラシュトラ州ピドキン工業団地
着工	2026年10月（予定）
稼働開始時期	2029年前半（予定）
延べ床面積	約30,000㎡
従業員数	約300名

※延べ床面積、従業員数は稼働開始時点の見込み

■新工場完成イメージ



■インドにおける生産拠点



成長戦略:インド事業④

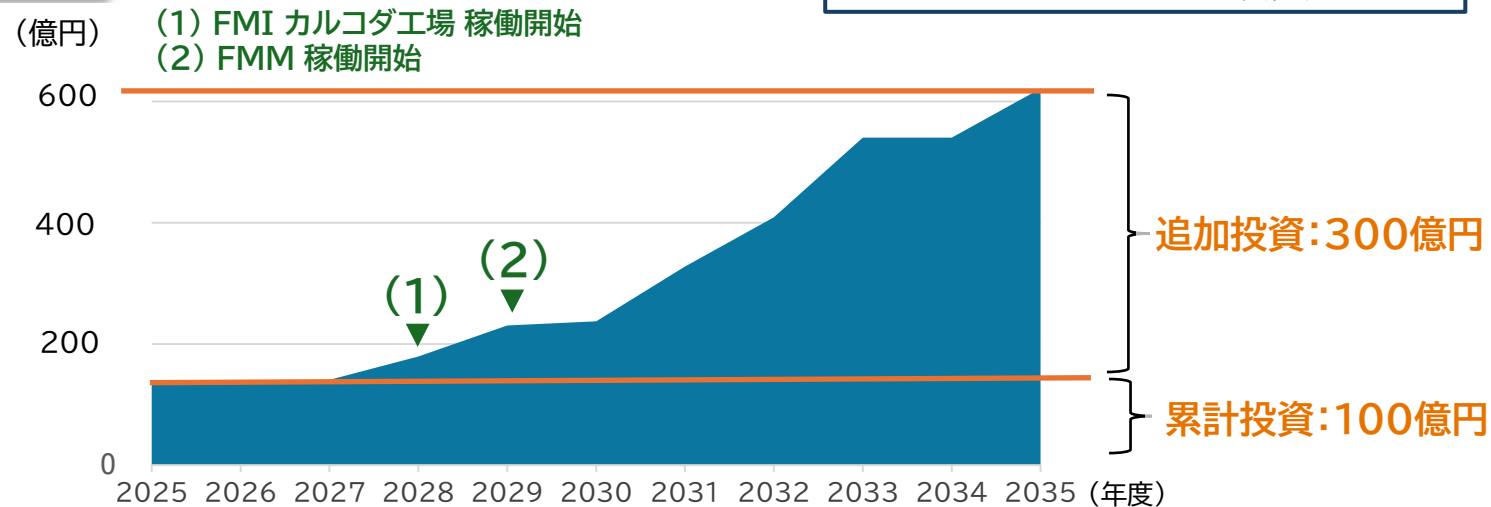
将来像に向けた取り組み

- 強みを生かした受注拡大
- 効率的な投資(ローカルサプライヤーとの協業、投資原単位削減)
- ローカル人材の採用から育成
- 設備事業の現地事業化

売上目標

※支給品を除く

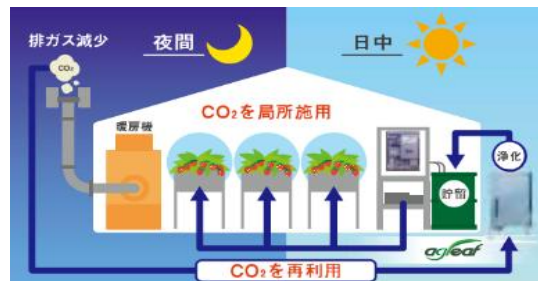
最適で効率的な成長投資を実施



農業事業(アグリーフ)

販売中

agleaf[®]CO₂システム



継続改良

- ・CO₂回収効率向上
→ 高濃度・長時間施用
暖房機のCO₂排出量削減
- ・暖房機燃料の多様化対応
→ バイオマス燃料など

エネルギー循環システム

研究・開発中



開発加速

- ・残渣の乾燥技術、熱利用方法、
肥料化技術の確立

レーザ除草ロボット

開発中



開発加速

- ・AI画像認識精度の向上
- ・レーザ照射技術の確立

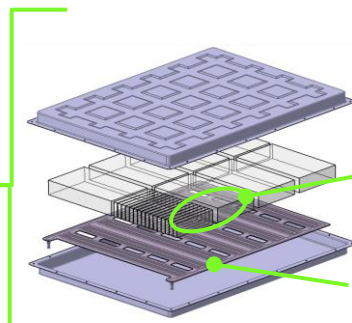
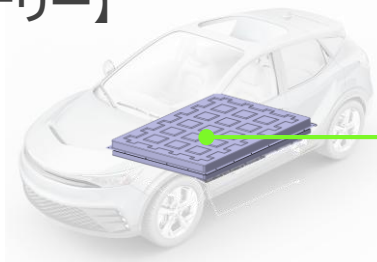
実際の農場で検証を実施
事業化加速

バッテリー製品

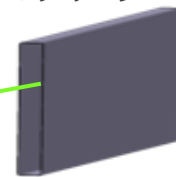
コア技術を活用した新製品開発

開発中

【バッテリー】



【バッテリーセルケース】



【バッテリー冷却プレート】

その他事業

環境・安心・豊かな生活を、新事業として社会へ訴求

【超小型SOFCシステム】

- ・電源インフラに依存しない
- ・持ち運び可能な発電システム

研究・開発中



【車載式CO₂回収システム】

建設機械などの排気ガスからのCO₂回収

開発中



CO₂回収
装置

開発加速

- ・システム搭載スペースとCO₂回収量の最適化
- ・CO₂の利活用のパートナー探索

売上計画

全新規事業での売上目標:40億円/年(2030年度)

アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

目指す姿

強い経営基盤(目標営業利益率・ROEの達成)

取組中

生産能力の柔軟性

・市場動向に合わせた人・設備能力の可変
〈例:人・工場〉

- UK、中国(広州):24年 214名削減
- 中国(長沙、天津):23、24年 工場閉鎖
- インド:27年 FMI第2工場新設

〈例:設備〉

- 寄止め:2直化比率 24年38%→27年70%

現場改善

- ・歩留り改善:原価の60%を占める、
材料使用量の低減
- ・不良低減
- ・生産性向上:3%→4%
工場IT(AI・ソフトウェア)による、
データ分析～対策
- ・省人化・無人化

強化:デジタル化、グローバル化

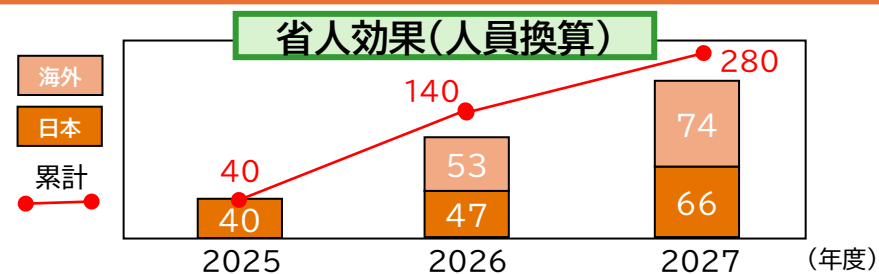
- 1)リードタイム短縮/投資削減
- 2)間接スリム化
・業務の改廃、定型業務化(AI活用)
- 3)もっと作りやすい製品
・工程短縮
・不良低減
- 4)スマートファクトリー **TOPIC**
(省人化・無人化、クリーンな工場)

TOPIC スマートファクトリー



27年度目標

自動化技術を展開中



アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

取り組み

重点施策を実施し、社員の**働きがい**の向上を図る
～仕事を通じた**成長実感**を、一人でも多くの社員に～

全員活躍

働きがいの向上

人材マネジメント改革

～多様な人材の採用・育成・配置～



リファラル・メディアの活用による
採用強化



上司との対話充実によるキャリア支援



個人ごとのスキルマップ活用による
技能育成



個人の成長・能力拡大、価値創造のための
異動・最適配置

人事制度改革

～制度の改革～



総労働時間の適正化による
ワークライフバランスの実現
多様な人財の活躍、社員の健康



DEI社内交流会・自律性研修、
職場リノベーションによる 環境の改革

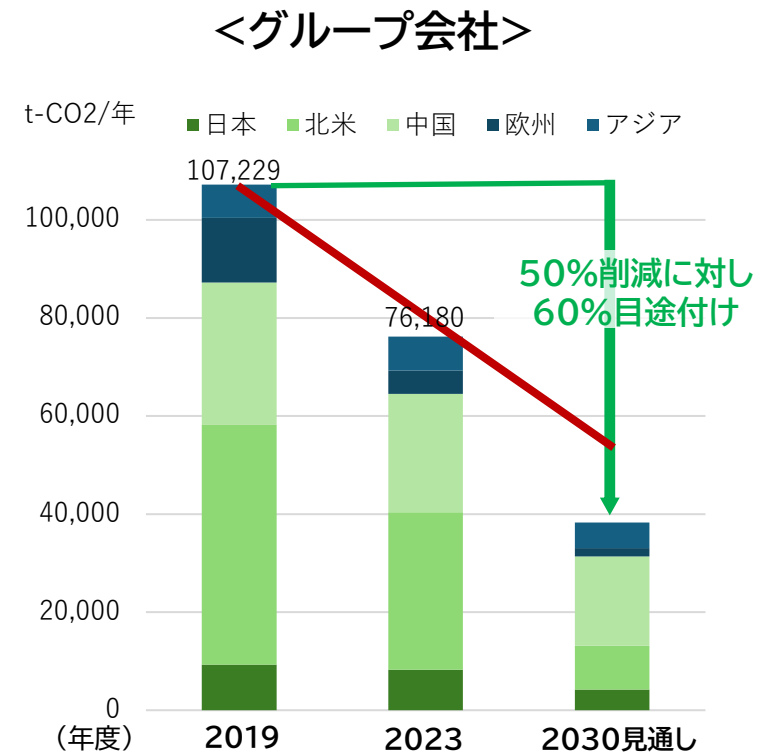
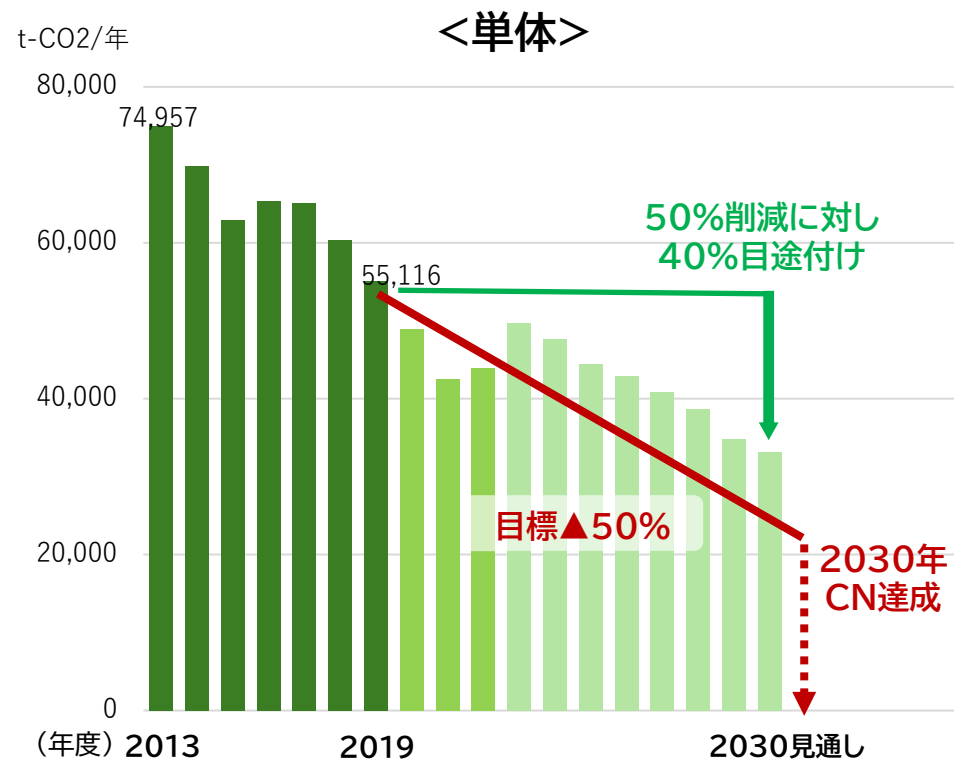


社員健康課題克服、ホワイト500の維持
を意識した健康経営

目指す姿

グローバル:2030年度(2019年度比) ▲50%以上(▲4.6%/年)
日本:2030年カーボンニュートラル達成にチャレンジ

工場のCO₂排出量ミニマム化



アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

現状の財務数値

配当利回り
4.79%

時価総額
842億円

PER
6.0倍

PBR
0.6倍

自己資本比率
41.5%

格付(JCR)
A⁻

(2026年6月末時点)

高い配当利回りで割安な銘柄

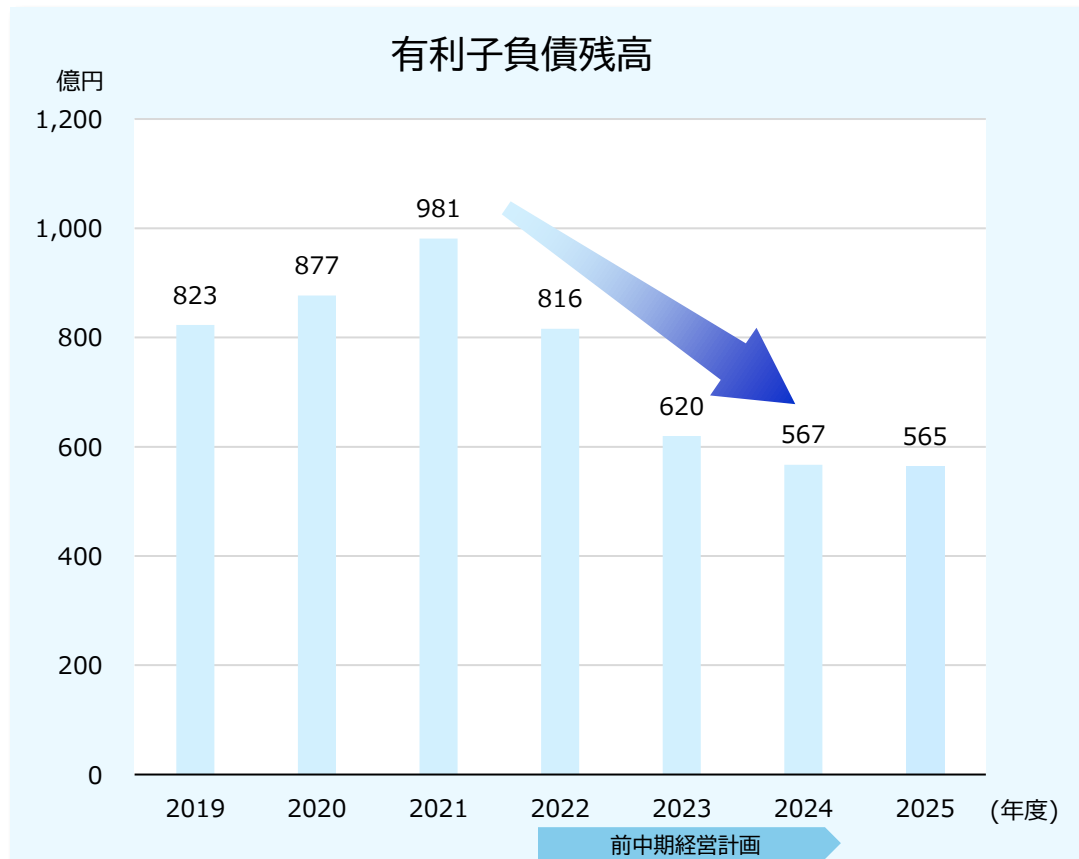
財務状況について

振り返り

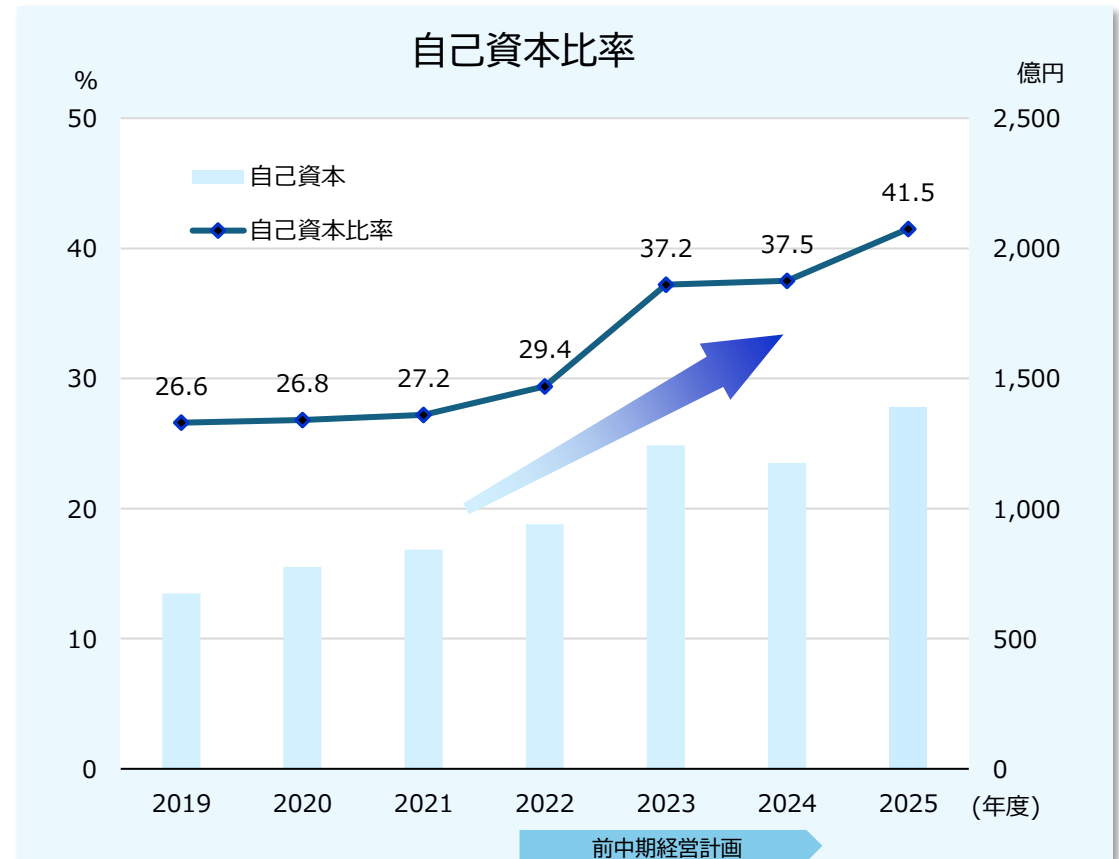
前中期経営計画テーマ

稼ぐ力を強化し、フリーキャッシュフローの増加をはかる

有利子負債の返済により財務体質は改善



有利子負債残高は2021年度末から
400億円以上削減



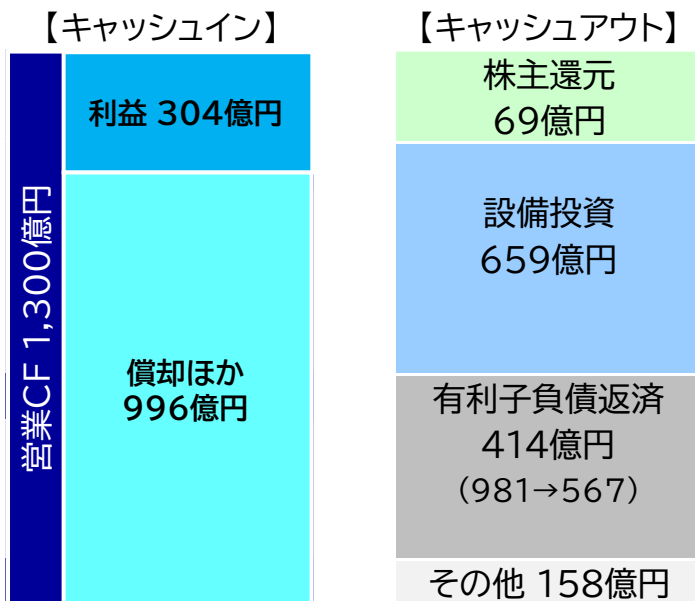
自己資本比率は2021年度末から
10ポイント向上

キャッシュアロケーション

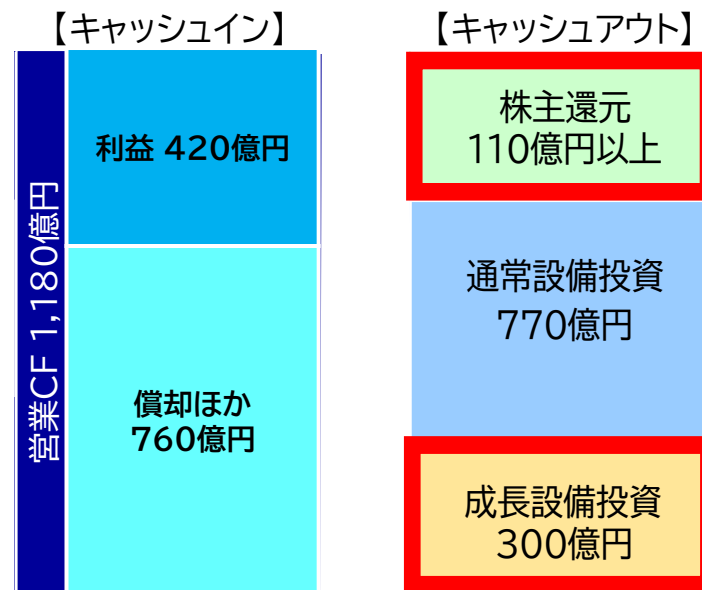
キャッシュ配分の変更

配分：「有利子負債返済」 ▶ 「将来成長投資」「株主還元」

前中期経営計画 2022-2024



新中期経営計画 2025-2027



▷ 現中計期間(2025-2027)では 研究開発費への投資を **220億円** へ増額予定。

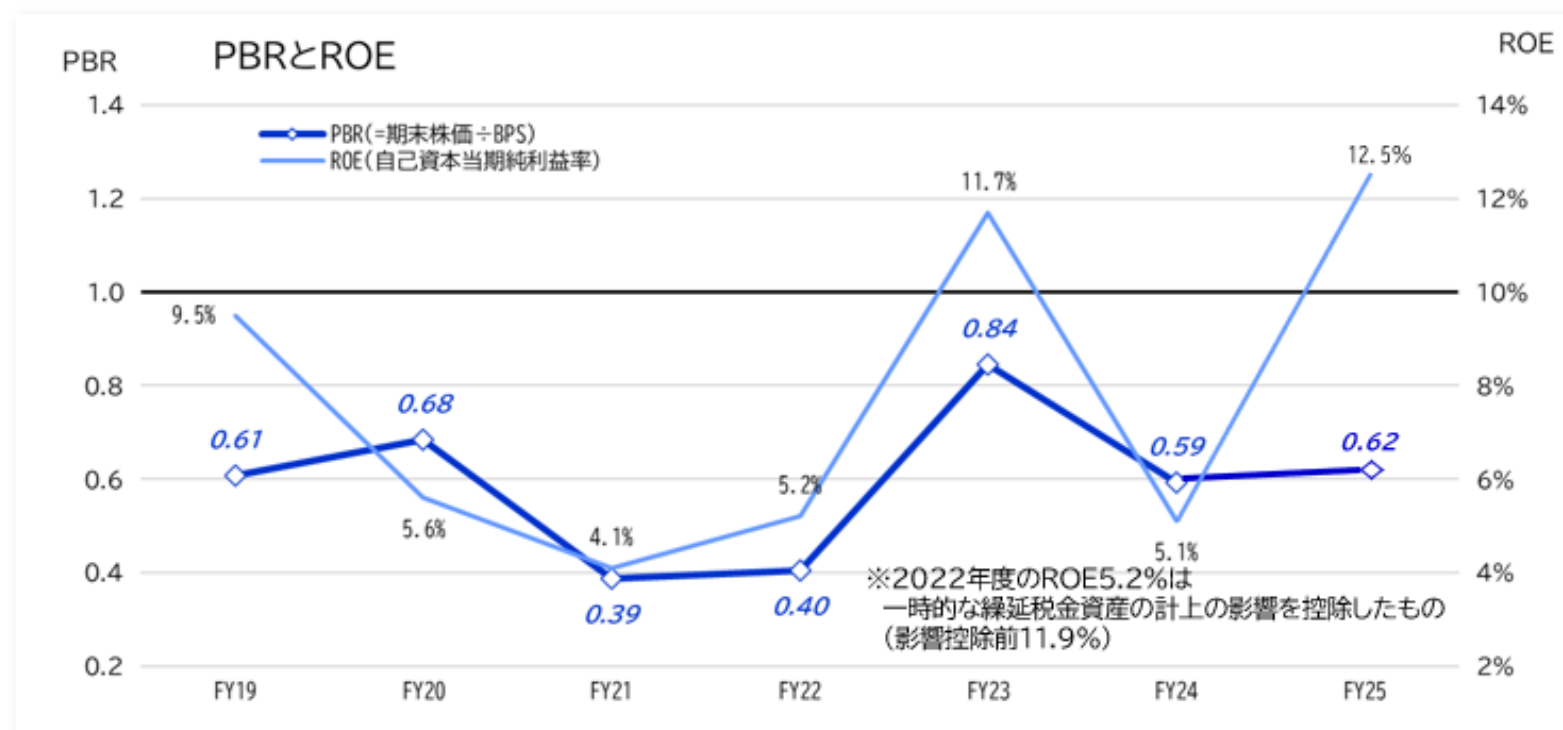
※前中計期間(2022-2024) 研究開発費:150億円

将来成長投資、株主還元に注力

新中期経営計画テーマ

PBR1倍の早期達成に向けて、収益力の向上をはかる

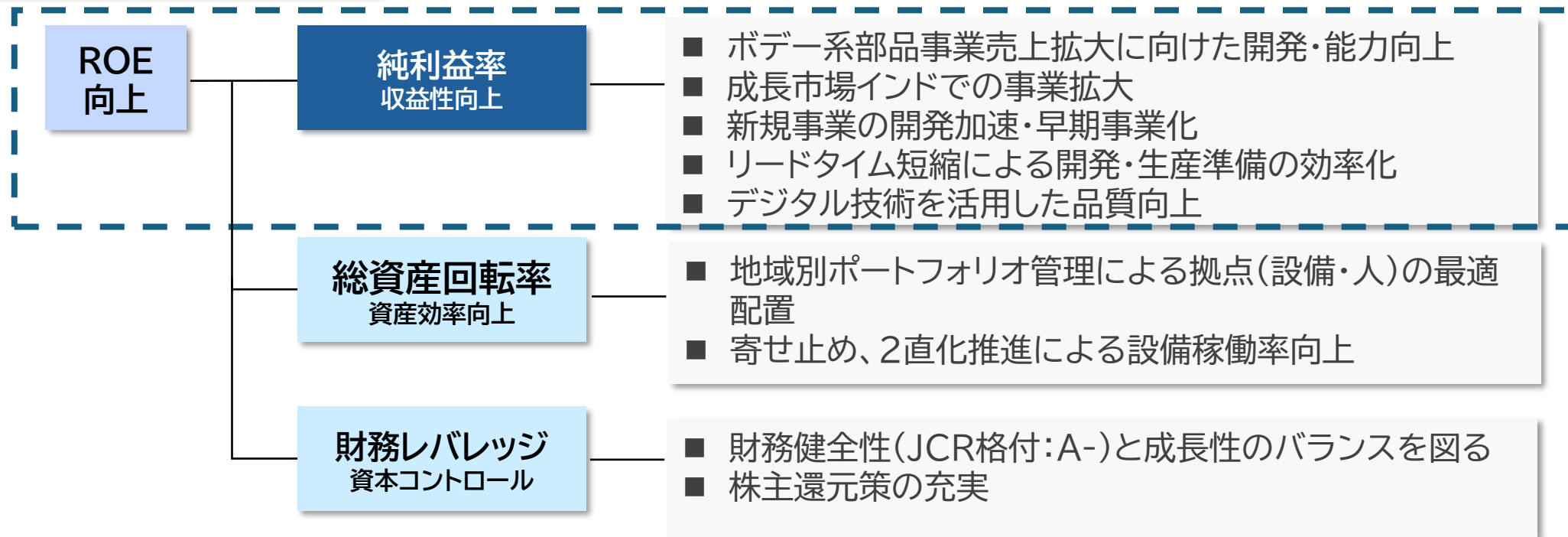
指 標	ROE	営業利益率
目標値	10%以上	5.0%(27年度)



過去データより当社のPBRとROEには相関があり、収益の持続的成長をはかることでROE10%を達成し、牽いてはPBR1倍以上を実現

ROE向上にむけて

ROE向上にむけた取り組み



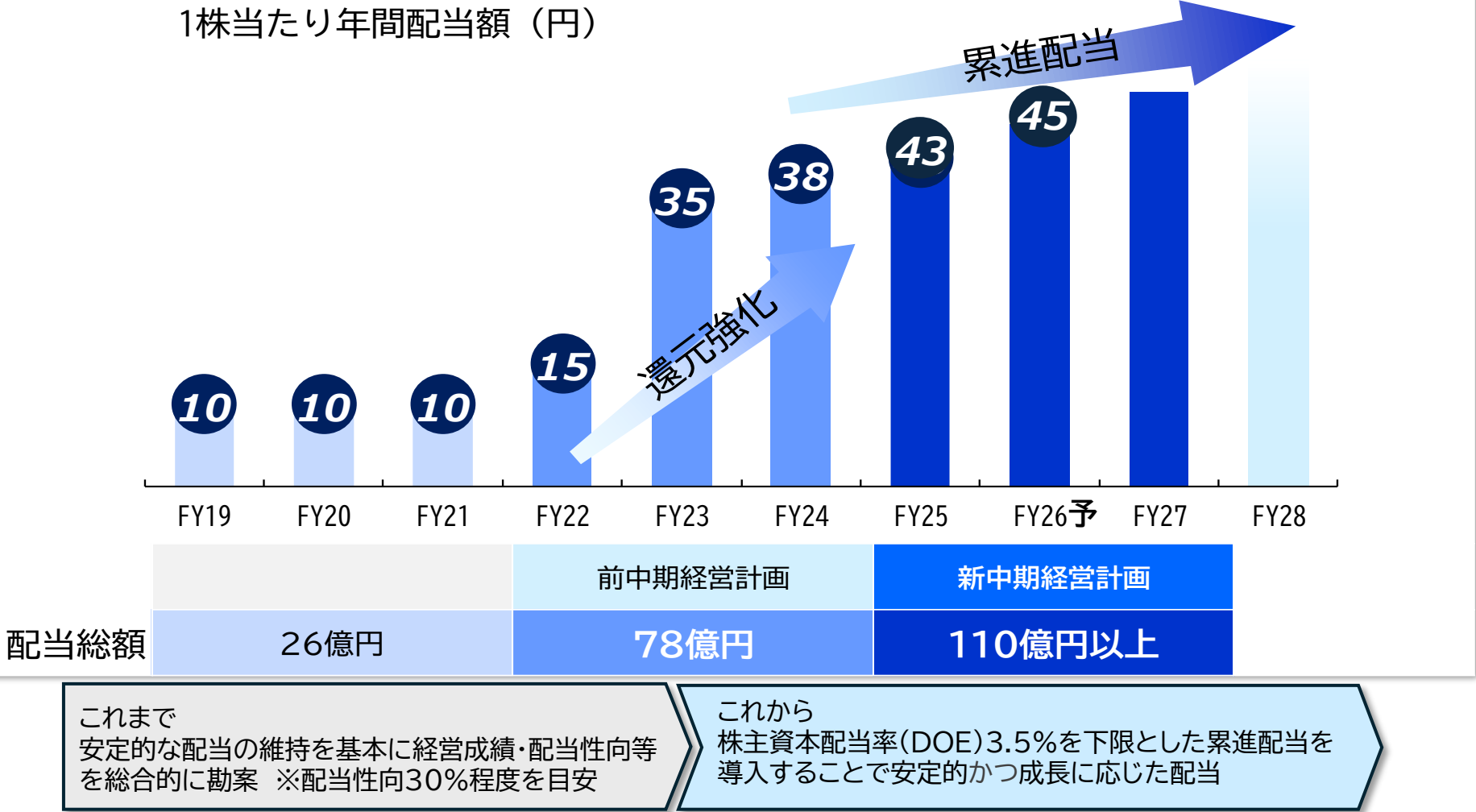
$$\begin{array}{|c|} \hline \text{ROE} \\ \hline 10\%以上 \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{純利益率} \\ \hline \text{営業利益率}5\% \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{総資産回転率} \\ \hline \text{維持向上} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{財務レバレッジ} \\ \hline \text{財務健全性管理} \\ \hline \end{array}$$

稼ぐ力の向上により、2027年度営業利益率5%達成を目指す

配当方針

株主資本配当率(DOE)3.5%を下限とした累進配当

1株当たり年間配当額 (円)



安定性を維持しつつ、業績に応じて増配できる還元策

株式情報

- 証券コード:7241
- 配当基準日:中間9月末、期末3月末
- 単元:100株
- 最低購入価格:94,000円
(2026年6月30日時点)



直近5年の株価は上昇傾向であり、今後も企業価値向上に尽力

Point
1

フタバ産業は創業80年の自動車部品グローバルサプライヤー

Point
2

成長戦略(インド事業、新規事業等)の創出と、経営基盤の強化で持続的成長を目指す

Point
3

累進配当で株主の皆様へ安定的かつ継続的に利益を還元しつつ、ROE10%・営業利益率5%を目指すことにより、更なる企業価値向上を目指す

(ご参考)さらに詳しく知りたい方:当社HP・FUTABA統合レポート2025



【当社ホームページ】

<https://www.futabasangyo.com/>

上部の「株主・投資家情報」より、IR情報がご覧いただけます。



ボデー部品

概要

自動車ボデー骨格部品を中心に生産・供給をしています。自動車衝突時における乗員の生存空間確保といった安全性に貢献するため、車両性能とモノづくりを両立させる構造を提案しています。

これまで推進してきた「ノン開発」による部品の大型化は、トヨタ「bZ4X」をはじめとする12のプロジェクトに展開され、3年間で中規模組立部品の受注拡大につながりました。また、お客様の解組車導入計画(新型モデル開発)に合わせて受注をいただいており、部品の大型化に伴う生産ニーズにお応えするため、順序生産・順序納入や物流の効率化を推進し、効率的な生産・納入体制を構築しています。

主要製品

橙色:中規模組立部品
黄色:1箱1台ハイテン材部品(980MPa以上)
灰色:その他の部品

重点活動

当社の強みを活かし、安心・安全な軽量・高強度ボデーの開発と、一体化構造提案を通じてさらなる競争力向上を進めていく。部品の一体化による部品点数削減や、軽量化等、クルマの価値向上につながる提案を積極的に行っていきます。

TOPICS 一体化への取り組み

2023年より、「飲でどこまでできるか」を開発テーマに、リアアンダーボデーを題材とした開発に取り組んでいます。約80点の部品で構成されるこの部品の部品点数を30%削減することを目指し、成型・接合技術の開発を進めてまいりました。現在は、開発した一体化製品をお客様に提案すると共に、他の部位への応用も進めています。

この一体化を実現するうえで、当社は主に2つの技術課題を解決しました。一つは、テラード溶接における段差の問題です。この溶接方法は、異なる材質や板厚の材料を突き合わせて接合できるため、性能と軽量化の両立に有効ですが、接合部の段差がプレス成形の課題でした。これを当社独自のレーザ接合技術で解決し、段差のない、なだらかな接合を実現しています。また、もう一つは、「深絞り部品」の成型です。フレキシブルが発生しやすく成形が困難でしたが、製品形状の工夫、成形工程や工法の最適化、材料流動の解析等を通じて、一体成形の実現の目標が立ちました。

人ともまのテクノロジー展の展示

テラード溶接により、6部品を一体化した、深絞りリアフロア

【FUTABA統合レポート2025】

https://www.futabasangyo.com/csr/env_report/

IR情報では統合レポートを掲載しております。
フタバ産業についてより詳しく記載しておりますので
ぜひご覧いただければ幸いです。



FUTABA

フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>

【注意事項】

本資料に記載される当社（連結子会社を含む）の見通し等は、当社が現在入手している情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従って、これらの業績予想等のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い申し上げます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

本資料に掲載のあらゆる情報はフタバ産業株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、一部の数値を億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。